

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3113 号	氏 名	及川 洸輔
論文審査担当者	主査 渡井 有 教授		
	副査 泉崎 雅彦 教授		
	副査 砂川 正隆 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>極低出生体重児における生後早期の栄養管理は、発達および成長の観点から重要である。諸外国では、経腸栄養を標準化することで極低出生体重児の予後改善につながったという報告が散見される。しかし本邦では、経腸栄養法に関する統一された指針が存在しない。</p> <p>本論文は、2017 年 12 月 25 日から 2018 年 1 月 31 日の期間に全国的新生児領域の専門医 300 名を対象として施行したアンケート調査をもとに、本邦における極低出生体重児の栄養戦略の現況把握を記述したものである。</p> <p>有効回答数は 137 名であった。出生体重にかかわらず過半数で生後 24 時間以内に経腸栄養が開始されていた。生後 1 週間までの経腸栄養の第一選択は、90%以上が母乳であった。出生体重 750g 未満において、自母乳が得られるまでの期間の管理は、絶食およびもらい乳の使用があわせて 30%を超えていた。また、出生体重が小さいほど、経腸栄養確立まで日数を要していた。</p> <p>本邦における極低出生体重児の栄養管理方法の現況を明らかにし、指針策定の基礎資料となりうる報告をした本論文は新知見を得ており、学術上の価値があり、学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名：Survey of a nutrition management method for very low birth weight infants: status before wide use of breast milk banks in Japan（極低出生体重児の栄養管理方法に関する調査 -日本における母乳バンク普及前の現況-）</p> <p>掲載雑誌名：Pediatrics International 2020 年 2 月掲載予定</p>			